

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105318		
法人名	医療法人たくふう会		
事業所名	グループホーム八幡の里		
所在地	岡山市中区八幡73		
自己評価作成日	平成23年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370105318&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成23年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・運営主体が医療法人である為、医療依存度の高い入居者への対応、また看取りまで行なっている。
 ・地域に根差したホーム作りを目指しており、運営推進会議や行事への参加をしていただいたりしている。また、ご利用者も地域行事への参加や、地域の小学校や保育園の児童との交流会など地域の一員として生活している。
 ・交通の便が良く、閑静な住宅地に立地し、コンビニ・スーパーも徒歩すぐにあることから、住環境として好条件が揃っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

公園・コンビニ・スーパー等が徒歩圏内にある住宅街で、一歩外に出れば住み慣れた懐かしい景色に出会える利用者も多いと思われます。コミュニティハウスに福祉の町の看板を掲げ、地域福祉に取り組んでいる地区で、保育園・小学校も近くにあり、交流が十分に出来ています。医療法人を中心に関連事業所も整備され、医療ニーズの高い利用者を受け入れ、看取りまでを視野に入れており、高齢化の進む地域の安全・安心の心強い味方となっています。長期の就業者も多く、働きやすさと情熱を感じました。今後さらに、地域の中で交流を深め、情報を発信し、高齢者福祉の重要な役割を担って行かれることを期待しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はあるが、共有・実践はできていない。	法人の理念「地域に根ざした医療と介護の調和」を基本に、事業所独自に「スタッフと入居者が1つの輪になって第2の家族を目指す」との理念を掲げ、共有と実践に向けて努力をされています。	理念はサービスの質の向上の動機付けになる大切なものです。折に触れ、全員で意義を確認し、日々のサービスに活かし、共有と実践につなげて行かれることを期待しています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、地域の一員として地域行事に参加し、交流している。また、近くの小学校の児童や保育園の園児との交流化を継続的に行なっている。	近くの保育園・小学校との交流、町内会のごみ当番や溝掃除、地域行事への参加を続けており、今年度は夏祭りにボランティアの協力を得て、車椅子9台で参加することができ、利用者の笑顔が見られたそうです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム機能を入居者のケアに配慮しながら地域に開放している。(認知症の理解や関わり方について相談対応・教室開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地域の皆様(町内会長・民生委員等)を構成員となっていていただき、2か月に1回開催している。認知症についての勉強会を開いたり、意見交換や相談に乗っていただき、サービス向上につながるように努力している。	2ヶ月に1回、平日に開催しており、家族全員に案内状を出して参加を呼びかけ、民生委員・町内会長・地区福祉協議会長・地域包括支援センター・薬剤師等の参加があり、意見をサービス向上に活用されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類手続きや運営に関し、質問をしたりご指導いただいたりしている。	制度や対応等について、わかりにくいことがあれば気軽に尋ねて回答をもらっているようで、協力的で、良好な関係が保たれているようです。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の設置、必要な場合は、必ず同意を取るなど徹底している。	身体拘束廃止委員会を設置し、全員で、言葉かけや行動・態度等も含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる様子が窺えました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行ったり、高齢者虐待防止法に基づいた勉強会を行ったりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームに日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している利用者がおられることもあり、周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容・改定内容を十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、来訪者からの意見が聞けるよう配慮している。意見など出しやすい関係作りに努めている。	家族との信頼関係を築き、面会時に意見を聞くようにしているが、直接言いにくい人には玄関に意見箱を設けており、要望についてはすぐに改善し、連絡ノートに貼って全員に徹底するよう心がけているそうです。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	サービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて共に取り組んでおり、介護従業者の採用、運営方法、入居者の入退去の判断等について、職員の意見を聴いている。	月2回のミーティング時の話し合いの他、個人的に休憩時間等を聞き、要望や意見があれば、管理者から代表者に伝え、回答を書面に行っているとのことで、話しやすい環境があり、きちんとした対応をされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを導入して、職員の意向や状況把握、スキルアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	岡山県認知症高齢者グループホーム協会の研修参加、法人全体研修、その他内外の研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡山県認知症高齢者グループホーム協会の正会員である。研修などに参加し、交流をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前・入居後の個人面接において、要望や意向をお聞きする機会を設けている。また、定期的に訪室し、面談する機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前・入居後の個人面接において、要望や意向をお聞きする機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前・入居後の個人面接において、要望や意向をお聞きする機会を設けている。また、定期的に訪室し、面談する機会を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は馴染みの関係構築を目指し、普段から温かみのある言葉遣いや対応に心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけや定期的連絡等を積極的にやっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の友人や近所の方の面会を受け入れ、入居者が今までに構築した関係が崩れないよう支援している。	家族や親戚の面会時に聞いたり、本人からの訴えがあれば、叶えてあげたいと思っており、ラーメン屋に同行したこともあるそうです。夏祭りでは近所の人からの声掛けが嬉しかったようです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	申し送りやカンファレンス、普段の報連相において、状況把握を心掛け馴染みの関係が作られるよう対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前・入居後の個人面接において、要望や意向をお聞きする機会を設けている。また、定期的に訪室し、面談する機会を設けている。	集団の中では言いにくいこともあるので、定期的に個室を訪問し、本音の部分聞き取るように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の個人面接において、聞き取りなどでベースシートを作成し、これまでの生活歴などを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、報連相を徹底し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望をお聞きし、チームとしてケアを行う上での課題を解決するために、全ての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	本人・家族はもちろんのこと、日頃の様子をよく知る職員からの気づきや意見を聞き、話し合うとともに、すぐに変化に対応するようにしており、現状に即した計画作成のための努力が窺えました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	申し送りやカンファレンス、普段の報連相において、状況把握に心掛け対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会長、民生委員等のからの情報、地域包括支援センターの会議等に参加し、情報の共有化等に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である旭竜クリニック主治医と連携し、適切に対応している。	2週間に1度、協力医の往診があり、適切な医療支援がなされています。眼科などは家族が対応しているとのことです。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当看護師と常に情報交換し、医療面との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	直ぐに診てもらえたり、往診してくれたり、入院を受けてもらえる医療機関が確保できている。入院中も面会に行き様子を伺い、退院時にスムーズに受け入れ、対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針、看取りについて説明している。また、状態によっては看取りの同意書を取り、ご家族の意見をベースにチームとしてのケア方法を話し合い行っている。	母体が医療法人であり、緊急時や夜間等連絡がとりやすく、安心感があり、医療・介護の協力関係のもとに、重度化や看取りについて取り組んでいる。今年4月にも利用者を看取り、家族からも大変感謝されたとのことです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応方法は指導し、詰所に図案化したものを掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練時、災害時の避難方法・避難経路・避難場所などの訓練をしている。また、町内会長等、地域の皆様と話し合いをし、連携に努めている。	スプリンクラーを設置しており、併設のデイサービスとともに、1年に2回、昼間と夜間を想定し、手順を確認しながら避難訓練を実施されています。	今年は全国的に地震や水害などが多く発生し、災害対策も多岐にわたると思います。夜間緊急時等のため、近くの24時間営業の店舗等に協力をお願いしてはどうでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	強引に進めるのではなく、入居者の考えや思いに合わせて、誇りやプライバシーを損ねないような対応を心がけている。	一人ひとりに選択肢を用意して選んでもらい、自己決定できるように配慮し、あわてず、穏やかに話しかけるなど言葉掛けには特に注意を払って対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずどのようにしたいかを確認し、意思に沿った支援を心がけている。また、必要な方には選択肢を準備し、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間もご本人の体調や睡眠時間等、ペースに合わせている。また、業務優先で介護は行わない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族からもご要望を聴取し生活歴と合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。準備や片付けも力量に合わせて行なってもらっている。	体調や病状に合わせてきざみ食や盛り付けを工夫し、ペースに合わせてサポートしており、畑で作った野菜を天ぷらにしたり、お好み焼きやホットケーキ・お菓子作りを一緒に楽しんだりしているようです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の力を引き出しながら、口腔の清潔を日常的に支援している(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)。異常があれば、家族の了承を得て訪問歯科の治療もうけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。食前、食後のトイレへの声かけ・誘導を行い、便座に座る習慣づけを行っている。	介護チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを掴んでおり、失敗はあまりないとのこと。声掛けやさりげないサポートもなされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事の提供と水分補給を行っている。また、体操などで体を動かし便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に健康状態の確認ができており、入居者の希望に合わせ、くつろいだ入浴ができるように支援をしている。	個々の利用者の健康状態を確認し、入浴の順番なども含め、思いに合うよう努めており、特殊浴槽を設置し、重介護の必要な利用者にも入浴を楽しめる工夫がされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜に眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通じ安眠策を採っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・医療連携体制の看護師と連携し、内服薬を理解するよう努め、カルテに内服薬情報を整理し、情報共有している。薬の変更があった時は、申し送りノートにも記入し周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調に留意しながら買い物に付き添ったり、衣類を選んだり、楽しみなどを選択できるよう援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ、近隣への散歩や買い物を行っている。	初詣やドライブ、散歩や買物同行、年中行事で戸外に出かけており、昨年は木下サーカスを観に行き大変喜ばれたようです。全員が出かけるということが思うようにできないのが悩みの種だそうです。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の小遣い程度の金銭管理を本人が行えることを尊重し、個々の力量に応じて必要物品や好みの買い物をする機会を日常的に作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、サポートしている。 (希望があれば居室に個人用電話の設置も行なっている。)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は、家庭的な雰囲気大切に、木の温もりを感じられるような設計になっている。自然に触れ合う事ができるよう、菜園や花壇を設け外気浴が出来るよう、ウッドデッキも設置している。カーペットを敷き、足を伸ばして過ごす事が出来る。	全体に木目調の造りで落ち着きがあり、リビングにはソファが置かれ、ゆったり過ごすことができ、寒くなればじゅうたんにコタツが登場するそうです。2年前に階段やトイレ等に階段状で波型の手摺が取り付けられており、工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	過ごす場所が個々で決まっている為、入居者同士の距離感を一定に保てるようにしている。馴染みの関係にある入居者同士が心地よく過ごしていただけるような居場所作りを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自宅で使い慣れた家具や馴染みのある生活用品を持ち込んでいただき、以前の住環境に近づけるように工夫している。	利用者一人ひとりの個性を尊重し、自宅から持ち込んだものを思い思いに配置し、くつろぎや安らぎを得られるよう配慮されていると感じました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室では以前に使用していた生活用品に囲まれ、安心して生活していただけるようにしている。また、畳を設置し、くつろげる空間を提供し、利用者間が馴染めるよう工夫している。		